

日本の下水処理において、下水中の有機物を処理する方法として一般的に用いられているのはどれか。

1. 砂層によるろ過処理
2. 粉末活性炭を注入して吸着させる活性炭吸着処理
3. 微生物のはたらきによる生物処理
4. 紫外線を照射する紫外線処理
5. オゾンガスを注入するオゾン処理

(正答 3)

水食の仕組みと因子に関する次の記述のA～Cに当てはまるものの組合せとして妥当なのはどれか。

細流浸食を放置したところ、畑の畝間、くぼみなどに雨水などの流出水が集まり、次第にそこを削って、耕作の支障となる大きな溝に発達する現象を という。

水食は、一般に土地の傾斜が急になるほど、地表流出水の流れる斜面長が ほど、浸食はひどくなる。また、土層の浸透能も水食の程度に影響し、浸透能の小さい土層では、降雨が地中に浸透しにくく、地表流が発生するため、水食が 。

A	B	C
1. 面状浸食	短い	起こりにくい
2. 面状浸食	短い	起こりやすい
3. 面状浸食	長い	起こりにくい
4. ガリ浸食	短い	起こりにくい
5. ガリ浸食	長い	起こりやすい

(正答 5)

1800 m³（締固めた土量）の盛土を造成するために必要な地山の土量と、ほぐした土量の組合せとして妥当なのはどれか。

ただし，土量の変化率は，ほぐし率を1.2，締固め率を0.9とする。

	地山の土量	ほぐした土量
1.	1500 m ³	1350 m ³
2.	1620 m ³	1350 m ³
3.	1620 m ³	2160 m ³
4.	2000 m ³	2160 m ³
5.	2000 m ³	2400 m ³

（正答 5）